

市民の命、安心安全な生活を守る仕事。
責任がともなう分、やりがいも大きい。



若原大護さん(1997年生まれ)

惟信高校 出身
愛知東邦大学 人間健康学部卒業

愛知県警察本部

名古屋市中区三の丸 2-1-1
<https://www.pref.aichi.jp/police/>

なるためには

- 必要資格 / 特になし
- 主な進路 / 高校を卒業→大学へ進学→公務員試験対策講座を受講→警察官採用試験に合格→警察学校に入校→交番勤務を経験→特別警戒隊に配属

——学生時代

「バレーボール部に入り、部活動に励みました。厳しい監督のもと毎日練習に専念。体力面や精神面が鍛えられましたし、チームワークの大切さを学ぶことができました。将来は体を使う仕事になりたいという思いがあったので、漠然とですが警察官という仕事に頭の中に取りました」

——大学時代について教えてください。

「高校卒業後、愛知東邦大学に進学しました。筋肉や身体の構造、スポーツ科学や心理学など、運動に関することを中心に学びました。瞬発力をつけたい、持久力をつけたいなど、それぞれの目的に適したトレーニング方法についても学びました」

——公務員試験に向けた対策は？

「1年次から大学の公務員試験対策講座の『東邦STEP』を受講しました。一般教養試験の対策として、過去問を解きながら試験に出やすい箇所や重要部分を中心にわかりやすく教えてもらいました。独学で勉強するよりも、効率的に対策ができたと思います。論文や面接の対策もあり、不安なく試験に臨むことができました」

——仕事について

「半年間、警察学校に入り、法律の知識、柔道、剣道、逮捕術など、警察官として働くうえで必要な基礎を学んでいきます。その中で大切だと感じたのは組織の一員としての自覚や仲間との絆です。その意識は今も仕事に取り組みううえで大切にしています。その後、2年半、交番勤務を

——メッセージ

「まずは、警察官採用試験に合格する必要があります。私は大学で対策講座を受講したので、とても心強かったです。将来、公務員を目指す方には受講をお勧めします。学生時代、私が大切だと感じたのは、やること、決めたことは最後までやり切ることです。私にとってはそれが部活動でした。継続したことが自分の力になっていくことを実感しています。あとは、「人を助けた」という強い気持ち。その気持ちが警察官として働くうえで一番大事だと思います」



——やりがい

「交番勤務をしていたときは、市民の方とふれあう機会が多く、皆さんからの『ありがとう』ございましたという言葉が励みとなりました。特別警戒隊では、イベントに向けて日頃から厳しい訓練をおこないますが、イベントが無事に終わったときは達成感があります。私たちは県民の安心安全な生活を守らないといけません。責任のともなう仕事ですが、その分やりがいも大きいです」

——18歳

部活動に熱中した高校時代。継続することの大切さを実感。

——22歳

愛知東邦大学に進学。公務員試験対策講座「東邦STEP」を受ける。

——25歳

特別警戒隊として勤務。市民の命、安心安全な生活を守る。



先輩のインタビューをもっと見た方は、WEBサイトへ！

<http://amb100search.com>



世界中に感動を届ける。
ゲームキャラクターの3DCGを担当し、



露峯啓太さん(1993年生まれ)

旭野高校 出身
アミューズメントメディア総合学院東京 卒業

株式会社セガ

東京都品川区西品川1-1-1 住友不動産大崎ガーデンタワー
<https://www.sega.co.jp/>

なるためには

- 必要資格 / 特になし
- 主な進路 / 高校卒業→専門学校で3DCGソフトの使い方、モデリングやモーション、エフェクト制作について学ぶ→ゲーム開発をおこなう企業に就職→3DCGアーティスト

—学生時代

「高校時代は、部活と勉強に励み、友達と遊ぶなど一般的な学生時代を過ごしました。この仕事に就くきっかけになったのは、大学生のときにバンクーバーへ留学したこと。そこで、日本のゲームや漫画などのサブカルが大好きな人に出会ったんです。『こんなに素晴らしい文化の魅力をわかったいの?』って言われて。日本のサブカルコンテンツが海外の人を執狂させていることに感動を覚えました。そこでエンターテインメント業界に興味をわき、大学卒業後、アミューズメントメディア総合学院に入学しました」

専門時代について教えてください。

「MAYAというソフトを使った3DCGの作り方、その中でも特に3Dキャラクター制作について学びました。美大生など、同じ業界をめざすライバルと戦うために意識したのは、とにかくアウトプットを増やすこと。とりあえず何事にもトライするようにしました。チームで分担してゲームを作り上げたのも貴重な経験になりました。最後まであきらめずに取り組み、「トラブルをどう解決するか」といった様々な場面に現できるか」といった様々な場面の対処法や工夫の仕方、何より問題に立ち向かう姿勢が身につきました」

—仕事について

「専門学校卒業後、様々なゲームの開発、販売をおこなうセガに入社しました。現在6年目で、私はゲームキャラクターの3DCGを担当し



ています。ゲームという世界中で楽しまれているコンテンツのなかで、一番目に入るのがキャラクターのグラフィックの部分。その制作に携わり、世界の人たちに感動を届けられる仕事です」

仕事の流れを教えてください。

「まず、ゲームの設定や世界観を決めるプランナーがキャラクターの性格などを設定します。その情報をもとにイラストレーター・アト班子が髪型や服装などビジュアルに関する情報を決めてキャラクターを描きます。そのイラストをもとに私がMAYAで3Dモデルを制作し、表情や関節の曲がり方など動きの設定をおこないます」

—やりがい

「ゲームの世界では『こうでなければいけない』というものがありません。自由な発想で、自分の仕事を世の中に広げていけることが魅力だと思います。それを楽しくできる人がいることがやりがいに繋がっています。自分が手がけたキャラクターに対して、SNSなどでユーザーからのリアクションがあるのもうれしいですね」

—メッセージ

「一般的なアドバイスとしては、ディッサン力は身につけておいたほうがいいです。絵はたくさん描いておいて損はないですよ。ゲーム業界で活躍したいなら、いろんなものにふれてインプットを増やしてください。映画を観る、旅行に行くなど、なんでもいいので自分の引き出しを増やしておくことが大切です。高校3年間は、自由にいろんなことをインプットできる機会がたくさんあると思います。自分で限界や制限を決めず、いろんなことにチャレンジしてください!」

ありがとうございます。



自分探検

21歳 カナダ留学を経験し、日本のサブカルコンテンツに興味をもつ。

24歳 3DCGの作り方、主にキャラクター制作について学ぶ。専門学校卒業後、セガに就職。

30歳 ゲームキャラクターの3DCG制作を担当。自由な発想で仕事に取り組む。

先輩のインタビューをもっと見た方は、WEBサイトへ!

<http://amb100search.com>



好きなこと、得意なことを仕事に。
音楽を通して出会えるよろこびを活力に



京夏 さん (1998年生まれ)
 嵯山女学園高等学校 出身
 嵯山女学園大学大学院 教育学専攻修了

京夏
<https://kyomoutau.wixsite.com/my-site-2>

- なるためには
- 必要資格 / 特になし
 - 主な進路 / 高校卒業→大学に進学→シンガーソングライターとしての活動をしながらボイストレーナーとして勤務

—学生時代

「一番最初に触れた楽器がハーブで、年少から小学6年まで習っていました。親のすすめでピアノも習いはじめたものの、クラシックへの苦手意識が強かったです。自らポップスの譜面を買ってみると、『楽譜にふってあるコード(和音)さえ弾ければもっと自由に弾けるじゃん!』と気づいたんです。それからピアノの練習をそっちのけにしてしまいうくらいポップスに夢中になって、コードがわかるようになると、楽譜がなくても耳コピで弾けるようになりましした」

音楽を仕事にしているこうと思ったきっかけは?

「中学の総合の授業で、好きなことについて3年間通して追求する時間があり、私は音楽をテーマにしてプロのアレンジャー(編曲家)さんを取材しました。そのときに自分が作った曲を素敵にアレンジしてくださって、ただただ感動。音楽の道に進む気持ちに拍車をかけました。合唱部に入ることでも歌にも自信をもつことができて、高校から本格的に歌を習いはじめました。大学では音楽の教員免許が取得できる学部に進学しました」

—仕事について

「ボイストレーナーとして幼児からシニア世代までを相手にレッスンをしながら、大学入学と同時に始めたシンガーソングライターとしての活動を続けています。どちらにも通ずるテーマが『音楽を通して出会

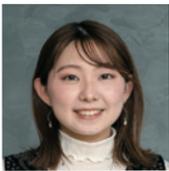
—メッセージ

「仕事を選ぶ決め手はいろいろあると思いますが、私は好きなことや得意なことを仕事にしました。好きだから追求できて、続けることで新しいつながりや発見が生まれていると思います。将来について悩んでいる人は、幼少期に好きだったことを思い出し、原点に帰ってみると新しい気づきがあるかもしれません。音楽の道に進みたいと思ってる人は、SNSに動画あげたり、地元でステージに出てみたりと、今の自分にできそうなことから挑戦してみてください」



—やりがい

「お客さんによるこんでもらえることが一番のやりがいになっていて、みなさんのよろこぶ姿と、その期待を超えたい気持ちのループが常にあります。その繰り返しによって、私の音楽活動の幅が広がっています」



- 18歳 得意な歌と作曲を活かしてシンガーソングライターとして活動を開始。
- 22歳 音楽の教員免許を取得。その後、大学院に進学。
- 24歳 シンガーソングライターとボイストレーナーの二足の草鞋を履く。

先輩のインタビューをもっと見た方は、WEBサイトへ!
<http://amb100search.com>



地域が抱えている問題を解決し、
人々の安心安全な暮らしを守る。



松田知也 さん(1993年生まれ)

至学館高校 出身

中部大学 工学部都市建設工学科卒業

国土交通省 中部地方整備局

名古屋市中区三の丸2-5-1
<https://www.cbr.mlit.go.jp/>

なるためには

- 必要資格 / 特になし
- 主な進路 / 高校卒業→大学で都市建設や土木分野を学ぶ
→国家公務員試験に合格→国土交通省中部地方整備局に入省→各事業所に配属

—学生時代

「親が公務員だったこともあり、将来は人のためになる仕事に就きたいと思っていました。中でも興味があったのは土木工事や道路工事です。でも当時は、どんな仕事があるのかもわからない状態。先生のアドバイスもあり、高校卒業後は中部大学都市建設工学科に進学しました。」

大学時代について教えてください。

「構造力学、水理学、土質力学など、土木分野の基礎を学びました。器具を使った測量やコンクリートの強度検査をおこなう授業が印象に残っています。特に楽しかったのは土質力学の実験。グループによって結果が違っても多く、実験と考察を繰り返していく難しさも体感しました。仕事で必要となる河川水理学や流量の計算式などの知識は、大学での学びが基盤になっています。国家公務員試験対策は、参考書をもとに数的処理を勉強したり、学科の先生から熱心に指導してもらったりしました。キャリアセンターで受けた面接対策や卒業生からのアドバイスもあって心強かったです。」

—仕事について

「国家公務員試験に合格後は、自分が志望する省庁を訪問して面接を受けることになりました。私は、国土交通省中部地方整備局に入省しました。1年目は、長野県駒ヶ根市にある「天竜川上流河川事務所」に配属され、河川水位や雨量のデータ観測業務を担当しました。現在は、富士砂防事務所で働いています。それ



風祭上流遊砂地工事

ぞれの地域が抱えている問題の解決に向けた整備目標を立て、各業者に工事を発注していきます。」

仕事内容を簡単に教えてください。

「人々の安心安全な暮らしを守る。これが私たちの仕事です。私が担当する地域には、現在、土石流などが発生したときに災害から住民を守るための砂防堰堤ダムを作る計画があります。その目標に向かって設計、測量、地質調査、用地交渉をおこない、国の土地にする手続きをしてダムの建設を進めていきます。このダムの建設は30年スパンで計画されていて、令和10年ごろの完成を目標にしています。」

—やりがい

「建設する砂防堰堤ダムは山の中にあり、なかなか世間から注目されません。でも縁の下の方力持ちとして、みなさんの安心安全な暮らしを支えられていることに誇りを感じながら働いています。イベントで防災業務に関する展示をおこない、興味をもってくれる人が増えるとうれしいです。これからもイベントや出前講座などを通して、防災意識を高める取り組みをしていきたいです。」

—メッセージ

「人のために何かをしたいと思っ
てはいるけど具体的なビジョンが思
い浮かばない人は、とりあえず公務
員をめざしてみてもいいかがでしょ
う。どの省庁、部署で働くとしても
私たちの仕事は国民の暮らしをよ
りよくすることに繋がっています。
学生時代は、ひとりの世界に閉
じこもるのではなく、いろんな人と
関わりをもって世界を広げてほし
いです。幅広い経験が、その後の人
生を左右する場面も多いですよ。自
由な時間が多い高校生のうちに、い
ろんなことに挑戦してほしいです。
ありがとうございました。」



自
分
の
強
み

- 18歳 人のためになる仕事を志す。高校の先生のアドバイスもあり、中部大学へ。
- 22歳 土木分野の基礎を学ぶ。国家公務員試験に合格し、国土交通省中部地方整備局に入省。
- 29歳 富士砂防事務所にて配属され、砂防堰堤ダム建設のプロジェクトを担当。

先輩のインタビューをもっと見たい方は、WEBサイトへ！

<http://amb100search.com>



最先端の仕組みを考える。
半導体装置の設計と検証を繰り返す。



中川凌さん(1993年生まれ)
名城大学附属高校 出身
名城大学 理工学部電気電子工学科卒業

株式会社メイテック
東京都台東区上野1-1-10 オリックス上野1丁目ビル
<https://www.meitec.co.jp/>

なるためには
●必要資格 / 特になし
●主な進路 / 高校卒業→電気電子分野を学べる大学に進学
→エンジニア派遣サービスをおこなう企業に就職→半導体装置の設計をおこなう

—学生時代

「小学生のときにサッカーを始め、高校3年のときは部長を任せられました。サッカーを通して成長を感じるのは視野が広がったことです。仲間の動きを見ながら、自分はどう動けばいいかを考えてプレーすることが大切。その姿勢は仕事にも通じる部分があると思います。パソコンが好きだったこともあり、当時はぼんやりと電気系の仕事に就きたいと考え、高校卒業後は名城大学理工学部に進学しました」

大学時代について教えてください。

「電気回路やプログラミングの基礎などを学びました。小さいボードに電子部品をつけて回路を作ったり、電圧を測ったりする実験がおもしろかったです。卒業研究は電子顕微鏡の仕組みをテーマにしました。卒業後は設計の仕事に就きたいと思い、様々な分野の設計に携われるメイテックに就職。自分が興味のある分野に挑戦できる環境に魅力を感じました」

—仕事について

「1年目は、過去の流用物を少し変えたりしながら、とにかく図面を作りました。どういう経緯でこの図面になっているのか、何が理由でこの決めたのか、その過程を残していくことが大事な仕事です。それは今も心がけています。あとは、コミュニケーションをとること。ほうれんそう報告連絡相談ですね。自分ひとりで作業していると何か問題があったときに対応できないので、細



かいこともいろんな人と議論しながら進めるようにしています」

仕事内容を簡単に教えてください。

「私が設計を担当しているのは、半導体の自動搬送装置。倉庫のラックに保管された製品を自動的にピックアップする、スタックークレーンという機械の制御をおこなう仕組みを設計しています。コントローラーとモーターにどのような指令を与えればいいのかを計算し、機械に落とし込んでいきます。装置ごとに担当が決まっています。6、7人体制で設計開発をおこなっています。装置が大きいので、常に安全性を重視して取り組むことが大切です」

—やりがい

「『こう動くはず』と計算して設計をおこなう、実際その通りに機械が動いた瞬間は感動しますよ。製品によつては、1、2年のスパンで設計と検証を繰り返します。長期間で開発をおこなうので、完成したときは『よかった〜』という達成感も大きいんです。私たちの仕事は、最先端の仕組みを考えること。今まで世の中にないものを生み出していることにやりがいを感じます」

—メッセージ

「資格を取得したり専門知識を身につけたりするよりも、高校時代は熱中できることを見つけ、とことんそれに取り組んでください。資格取得も勉強も、大人になってからいくらでもできます。でも高校生の熱量で何かに取り組む経験って、そのときしかできないことです。私もパソコンや部活に熱中したことが、エンジニアとして働く今にいかされていると思います。何かに全力で取り組んだ経験は、別の分野に進んだとしてもきつといかされる場面がありますよ」

ありがとうございます。



18歳
↓
23歳
↓
29歳

部活に熱中した高校時代。パソコンが大好きだったこともあり、名城大学理工学部に進学。
電気回路やプログラミングの基礎を学ぶ。大学卒業後、メイテックに就職。
半導体装置の設計を担当。まだ世の中にない新しい仕組みを考えていくことにやりがいを感じる。

先輩のインタビューをもっと見た方は、WEBサイトへ！
<http://amb100search.com>





「試合に足を運んでくださる方、画面越しに見てくださる方、やっぱり応援してくださいファンが存在がやりがいにつながっています。『いつも応援しています』とか、『あのときのプレー、感動しました！』とか声をかけてくれる方もいるのでうれしいですね。現在、日本リーグ3連覇中なので、4連覇をめざしています。常勝を掲げ、トーナメントタイトルも総なめにしたいですね」

——やりがい

「試合に足を運んでくださる方、画面越しに見てくださる方、やっぱり応援してくださいファンが存在がやりがいにつながっています。『いつも応援しています』とか、『あのときのプレー、感動しました！』とか声をかけてくれる方もいるのでうれしいですね。現在、日本リーグ3連覇中なので、4連覇をめざしています。常勝を掲げ、トーナメントタイトルも総なめにしたいですね」

「学生時代は、何でもいので挑戦してほしいです。勉強でも趣味でも遊びでもいい。自分が好きなもの、ちょっとでも興味が湧いたものに」

——メッセージ

「スポーツを続けていくと、うまくいかないこともたくさんあります。最後の最後まで負けずに優勝できるチームは、1チームだけです。そんななかでも、仲間との助け合い、つながりを大切にすることが大事だと私は思います。くやしさを糧に、一歩を踏み出し続けてほしいです。僕が続けてこれたのは、悔しさのあとに、成功したいという気持ちの湧いてくるから。それが私の原動力です。最終的にうまくいかなかったとしても、自分の中でやりきったときは何かしら達成感があると思うので、悔しい気持ちがある限りは続けていきたいです」

藤戸量介さん(1989年生まれ)
愛知高校 出身 中央大学 体育学部卒業



13歳
23歳
33歳

友達の影響でハンドボールを始める。試合に勝つ喜びを知る。
豊田合成ブルーファルコンに入団。相手選手の研究、分析をすることで自身の持ち味を発揮。
非日常のエンターテインメントを演出。4連覇に向けて常勝を続ける。

「挫折と克服」
「振り返って大きな挫折だと感じるのは、途中で日本代表レベルの選手が入ってきたことで、スタメンとして試合に出場することができなくなってしまったことです。でも、ハンドボールは交代が自由なので途中出場の場合はたくさんあります。そのときは、与えられたチャンスを活かしてどう最大限に自分の持ち味を出すかを常に考えています。ただ闇雲にスタメンだからいい、自分が活躍できればいい、というわけではなく、今はベテランとして、チームの勝利のために何ができるのかを考えるようになりました。試合に出ていなくても、声を出してまわりを鼓舞したりと、チームのために貢献する方法はたくさんありますから」

「本気と本気がぶつかって生まれるエンターテインメント性、普通に生活しているだけでは味わえない非日常感を、味わってほしい。」
「挫折を乗り越えるには、何が大切だと感じましたか？」
「大切なのは、挑戦をすることだと思えます。何事も挑戦を続けると壁にぶつかることがあります。自分の人生を振り返っても、挑戦したときにぶつかった壁や挫折、悔しい思いが『次も頑張ろう』という原動力になっている気がします。壁にぶつかったら、まず私は、いろんな人の意見を聞いたり、様々なメディアの情報を吸収したりするようにしています。インプットした情報を自分の中で昇華して、次のステップにかかっています」

「ハンドボール人生」
「スポーツ選手の仕事は、本気と本気がぶつかって生まれるエンターテインメント性、普通に生活しているだけでは味わえない非日常感を、味わっている人に味わってもらうことです。何かしら、心がゆれる瞬間、心を動かされるものがあると思います。ハンドボールの魅力は、ひとりでは完璧な結果を出せないことです。自分の調子がいいときは仲間をフォローし、悪いときは仲間がフォローしてくれる。仲間と助け合いながら、みんなでチームをいい方向にもっていかれることがチームスポーツの魅力だと思います。私は、試合中にいいプレーが出たらよく吠えるんです。プレーや声で試合会場を掌握するという意識で、常に試合に臨んでいます」



——メッセージ

「スポーツを続けていくと、うまくいかないこともたくさんあります。最後の最後まで負けずに優勝できるチームは、1チームだけです。そんななかでも、仲間との助け合い、つながりを大切にすることが大事だと私は思います。くやしさを糧に、一歩を踏み出し続けてほしいです。僕が続けてこれたのは、悔しさのあとに、成功したいという気持ちの湧いてくるから。それが私の原動力です。最終的にうまくいかなかったとしても、自分の中でやりきったときは何かしら達成感があると思うので、悔しい気持ちがある限りは続けていきたいです」

「1回は挑戦してください。その経験が、社会に出たときに何かのきっかけになる可能性があるんです。学生ときは『どんな意味があるんだらう?』と疑問に思うことが多いと思いますが、自分の引き出しが増えることは絶対にプラスになるはず。あと、何か行動を起こすときは準備を大切にしてください。会話ひとつとってもそう。ただ闇雲に動くのではなく、まわりのことを考えて行動や発言をする。これは、スポーツ選手としても社会人としても大切なことだと思います」
「ありがとうございました」

YOUTH
ユースフラッシュ
FLASH

名古屋出身の有名人インタビュー

愛知高校出身のハンドボール選手、藤戸量介さんを独占取材!

友達の影響でハンドボール部に入部したことが、ハンドボール人生のスタート。学生時代は悔しい思いをすることも多かったそうですが、それが現在もハンドボールを続ける原動力に。常に挑戦を続ける藤戸さんに、一歩を踏み出し続けることの大切さを聞いてきました。

「学生時代と違って一緒にプレーする選手の世代が幅広く、自分らしさをどう出すかに悩みました。最初の1年くらいは、思ったようにプレーできないことが多かった。そのなかで大切にしたのは、大学からずっと続けてきた、相手選手を分析、研究すること。その分析から、今の自分ができることを深めていくこと。その成果もあり、感覚が慣れてきて手応えを感じられるようになってきました」

「学生時代と違って一緒にプレーする選手の世代が幅広く、自分らしさをどう出すかに悩みました。最初の1年くらいは、思ったようにプレーできないことが多かった。そのなかで大切にしたのは、大学からずっと続けてきた、相手選手を分析、研究すること。その分析から、今の自分ができることを深めていくこと。その成果もあり、感覚が慣れてきて手応えを感じられるようになってきました」

「学生時代と違って一緒にプレーする選手の世代が幅広く、自分らしさをどう出すかに悩みました。最初の1年くらいは、思ったようにプレーできないことが多かった。そのなかで大切にしたのは、大学からずっと続けてきた、相手選手を分析、研究すること。その分析から、今の自分ができることを深めていくこと。その成果もあり、感覚が慣れてきて手応えを感じられるようになってきました」

「学生時代と違って一緒にプレーする選手の世代が幅広く、自分らしさをどう出すかに悩みました。最初の1年くらいは、思ったようにプレーできないことが多かった。そのなかで大切にしたのは、大学からずっと続けてきた、相手選手を分析、研究すること。その分析から、今の自分ができることを深めていくこと。その成果もあり、感覚が慣れてきて手応えを感じられるようになってきました」

「学生時代と違って一緒にプレーする選手の世代が幅広く、自分らしさをどう出すかに悩みました。最初の1年くらいは、思ったようにプレーできないことが多かった。そのなかで大切にしたのは、大学からずっと続けてきた、相手選手を分析、研究すること。その分析から、今の自分ができることを深めていくこと。その成果もあり、感覚が慣れてきて手応えを感じられるようになってきました」

「学生時代と違って一緒にプレーする選手の世代が幅広く、自分らしさをどう出すかに悩みました。最初の1年くらいは、思ったようにプレーできないことが多かった。そのなかで大切にしたのは、大学からずっと続けてきた、相手選手を分析、研究すること。その分析から、今の自分ができることを深めていくこと。その成果もあり、感覚が慣れてきて手応えを感じられるようになってきました」



お客様のお困りごとを解決する窓口。
顔が見えないからこそ、常に笑顔で。



増田ゆきなさん (2002年生まれ)

享栄高校 出身

シェアリングテクノロジー株式会社

名古屋市中村区名駅1-1-1 JPタワー名古屋19F
https://www.sharing-tech.co.jp/

なるためには

- 必要資格 / 特になし
- 主な進路 / 高校卒業→暮らしのお困りごとを対象としたWEB事業を展開する企業に就職→電話受付事務

— 学生時代

「物心ついたころから絵を描くことが大好きで、趣味に没頭した学生生活でした。高校時代は、自分で描いたイラストを缶バッジや漫画などに商品化したりもしました。シェアリングテクノロジーを知ったのは学校の求人票がきっかけです。そこに載っていた、会議室の壁画やおしゃれなイラストに囲まれるオフィスに一目惚れ。会社見学に参加し、すぐに『ここで働きたい!』という思いが固まりました」

— 仕事について

「入社後、ビジネスマナーや話し方の練習、敬語の使い方などの研修を受けました。その後、すぐにお客様対応を任せられるようになりました。当社は、暮らしのお困りごとを解決する『生活110番』などのWEBサービスを展開しています。電話でヒアリングするのは、名前などの個人情報、お困りごとは何か、いつまでに解決したいかなど。その情報から、お客様のご要望と地域に対応できる最適な業者を全国6000社以上の中からご紹介いたします」

「対応するお困りごとの種類は?」
「ガラスが割れた」「家に虫が出たから駆除してほしい」「車の中に閉じ込められてしまった」など、幅広いジャンルのお問い合わせがあります。多いときには1日100件を超える電話対応をすることもありますが、入社当初は、これまで電話対応の経験はほとんどなかったの

で、電話に苦手意識がありました。あとは、私の地声の音量が大きくて、高圧的に聞こえてしまうところがありました。改善に努め、今では、以前よりも柔らかくお話しすることができるようになりました。最初は、ガラス交換や網戸の張り替えなどのヒアリング項目が少ない簡単なジャンルを担当します。入社して3か月頃には、すべてのお困りごとの対応ができるようになりました」



— やりがい

「電話口でも常に笑顔でいることです。顔の見えないやりとりだからこそ、困っているお客様に安心していただけるような対応をしたいと思っています。なかには緊急を要するようなお困りごとを抱えた方もいるので、臨機応変に声の温度感を変えることで、お客様の心に寄り添えるよう心がけています」

「お客様からアンケートで、『ありがとうございました』という感謝の言葉や、『聞きとりやすかった』『助かりました』などお褒めの言葉をいただいたときにやりがいを感じます。お困りごとの解決に自分が携われたんだなと改めて実感します」

— メッセージ

「電話をしながら相談内容をパソコンでまとめないといけないので、タイピング技術が必要になります。高校時代にパソコン関係の検定を受けておいてよかったです。そのほかの知識は入社後に学んでいきます。学生時代は好きなことしかやっていなかったもので、OLとして働いて今の自分はまったく想像できませんでした。みなさんにも、想像できないことがこの先の人生でたくさん起きると思います。たくさんの方に挑戦して、今を全力で楽しんでほしいです」

ありがとうございます。



17歳
18歳
21歳

趣味である絵を描くことに没頭した青春時代。
オフィスに一目惚れし、シェアリングテクノロジーに入社を決める。
お客様に寄り添った対応を心がけ、お困りごとを解決。

先輩のインタビューをもっと見た方は、WEBサイトへ!

<http://amb100search.com>



新しいつながりや発見を生み出す。
 コーヒー杯を通して



石部陸さん(1995年生まれ)
 南山国際高校 出身
 名古屋外国語大学 現代国際学部卒業

hikure.
 豊川市御津町西方日暮17
<https://www.instagram.com/hikure.coffeeoasters/>

なるためには
 ●必要資格 / 特になし
 ●主な進路 / 高校卒業→大学に進学→メルボルンでコーヒーを学ぶ→帰国後、珈琲専門店にて焙煎とハンドドリップを学ぶ→独立し、ロースターカフェをオープン

— 学生時代

「幼少期は、おじいちゃんに連れられて、よく地元の喫茶店に行っていました。オレンジジュースから、徐々にコーヒーを飲むように。高校生になると、動画を参考に見よう見まねでコーヒーを淹れはじめました。大学生になって将来のことを考えたときに思ったのは、いま続けていることじゃないと先は続かないなど。変わらずコーヒーを淹れ続けていて、スケボーをやるのも見るのも好き。この2つが好条件でできる場所を探して出会ったのがメルボルンでした。調べれば調べるほどコーヒーのカルチャーが根強いことがわかり、内定を辞退した数ヶ月後にはメルボルンに行っていました」

「日本とはライフスタイルがまったく違って、時間の使い方メリハリを感じました。カフェの営業時間が7時〜15時でやれているのはそこにニーズがあるから。若い子でも朝5、6時から運動して途中でコーヒーを飲んだり、社会人もオフィスへ出社せずにコーヒーを飲みながら仕事をしたり。自分のライフスタイルをしっかりとっている人が多い印象です。もともとワーキングホリデーは1年と決めていたので、人の2倍動く姿勢で頑張りました。現地でも働いているうちにコーヒーの奥深さによりハマっていききました」

— 仕事について

「帰国後、『スペシャルティコーヒー』というお店で焙煎とハンドドリップを学びました。地元をかついていい街にしたいと思って活動している先人たちから『将来何か一緒にやろうよ』と言ってもらっていたのと、若い子たちが『うちの街かつこいいよ!』と誇れるようにしたかったこともあり、地元でお店をやりたい。2022年に『hikure.』をオープンしました」

仕事内容を教えてください。
 「コーヒーを通してコミュニケーションをくりしています。店員と客というよりはか割とフラットでありたくて、『hikure.』が、日が暮れるまでの溜まり場になってくれたらうれしいです。カウンターでお客さん同士が仲良くなって過去の話を持ち出すと『地元が一緒!』なんてことも。1杯のコーヒーからつながりや発見が生まれて面白いです。主な仕事内容は焙煎、抽出、豆の卸売りなど。ロースター(焙煎所)を始動してからは、コーヒーへの追求心に磨きがかかっています。焙煎は重要な役割で、最大限のポテンシャルを出すことを心がけています」

— やりがい

もよく来てくれたりと、最近はずいぶん嬉しいですね」

— メッセージ

「数多のお店があるなかでお店を始めるには、まずは『自分の好き!』を理解することから始めるといいですよ。そのために、いろいろなお店に行ってみて自分もつ物差しの長さを長くすることが大事。コーヒーが好きなのであれば、いろいろなコーヒーを飲んでみてください。経験値が高ければ高いほど、社会人になつたときに自分を表現しやすくなりますよ」

ありがとうございます。



18歳 YouTubeや人からのアドバイスを参考にコーヒーを淹れはじめる。

↓

22歳 就職の内定を辞退。コーヒーの勉強をするためにメルボルンへ。

↓

27歳 独立。ロースターカフェ『hikure.』をオープン。

先輩のインタビューをもっと見た方は、WEBサイトへ!

<http://amb100search.com>



地下から都心部の生活を支える、
正に縁の下の力持ち。



山本裕太郎さん(2000年生まれ)

愛知総合工科高校 出身

中部電力パワーグリッド株式会社

名古屋市中区千代田2-12-14

<https://powergrid.chuden.co.jp/>

なるためには

- 必要資格 / 特になし
- 主な進路 / 高校入学→第一種電気工事士などの資格を取得
→高校卒業→電力会社に就職→送電部門に配属→地中線課に所属

——学生時代

「自分たちが1期生だったので設備も新しく、先輩がいなかったこともあってのびのびできました(笑)。学科は電気科を選んだのですが、電気と機械 両方の知識を身につけたいと思い、部活は機械技術部に入りました。授業で電気の理論を学び、機械の構造などは部活で学ぶ感じでした。授業では、電気配線や電気理論、発電理論などを学びました。部活では、工作機械を使って加工をしたり、機械部品の設計図を作図しました。ロボット相撲の大会に出たことも思い出に残っています。就職に関しては、中学生のときから電気系の仕事に就きたいと思っていました。一番安定してやりがいがありそうだったのが、今働いている中部電力パワーグリッドです」

——仕事について

「部門が家庭などに電気を送る『配電』と、発電所で作られた電気を変電所に送る『送電』に分かれるのですが、私は送電を選びました。電気の取扱についての勉強、鉄塔を登るための高所作業の研修など、最初は学ぶことが多かったです。指導員からは、「私たちの仕事は電気をお客さまに送ること。安全で安定した電気を送ることが重要」と教わりました。送電線と配電線は電気の道です。それを保守するという、とても重要な役割を担っているという意識が養われました」

「みなさんの仕事や日々の生活を守るために、
仕事内容を簡単に教えてください。」



「近に溢れていますよね。スマホやパソコン、照明をはじめとする、様々な製品とその製造に欠かせない電気を保守する仕事です。とても口マンのある仕事だと思いますよ。私はそのなかでも、工場や大規模ビルなど大きなエネルギーを必要とする場所へ電気を供給する仕事を担当しています。具体的には地中線保守業務です。鉄塔が立てられない都心の地下には電気ケーブルを通す管路があるのですが、地下通路に降りてそのケーブルに異常がないかを目視点検しています。異常がなかったらメンテナンスをおこないます。ケーブルの接続点は故障リスクが高いので、見逃しがないよう特に注意して点検をします」

——やりがい

「日々の業務に取り組むなかで、みなさんの生活に不可欠なライフライン事業に携われていることに誇りを感じます。電気の安定供給を守ることで、みなさんの生活基盤を支えられることがうれしいですね。地下から都心部の生活を支えている、正に縁の下の力持ちです」

——メッセージ

「技術職だと、工業高校か理系大学の卒業生が多いですね。学校で学んだ専門知識をベースにして、社会に出てからは実践的に学んでいきます。高校時代は、チャレンジ精神をもって何事にも取り組んでほしいです。私も高校は電気科に入りましたが、機械系のことでも学んでみたいという思いもあって機械技術部に入りました。みなさんも、やりたいことがあるなら、ぜひ挑戦してください。社会で求められるのは、一歩を踏み出す勇気と挑戦する気持ちですよ」

ありがとうございます。



- 18歳 電気と機械について学ぶ。高校卒業後、中部電力パワーグリッドに就職。
- 19歳 送電部門に配属。電気工事について学ぶ。
- 22歳 地下通路で電気ケーブルの巡視業務に携わる。電気を安定供給することで生活基盤を支える。

先輩のインタビューをもっと見た方は、WEBサイトへ！

<http://amb100search.com>



好奇心の赴くままに
やってみたいことに突き進む。



emiさん(1995年生まれ)
名古屋市立名古屋商業高校 出身

meture
名古屋市中村区本陣通3-53-6
https://www.instagram.com/meture_official/

なるためには

- 必要資格 / 特になし
- 主な進路 / 高校卒業→アパレルショップに就職→ナチュラル&オーガニックコスメを扱うセレクトショップに転職→美容院併設のハーブティースタンドをオープン

— 学生時代

「幼いころにママさんバレーに連れて行ってもらったので、バレーボールが身近な存在でした。中学・高校時代はバレーボール部に所属して、副キャプテンとキャプテン、どちらも務めたことがあります。相手から受けたボールをどう自分たちのボール、作品にして返すか、戦術を考えたり、仲間と切磋琢磨して取り組んだりする時間が楽しかったです。ひとつのものを長く続けることの大切さを学ぶことができました」

— 仕事について

「高校卒業後に就職したアパレルショップから転職をするときに、自分がよく行くお店や検索履歴など、自分の行動パターンから好きなものを探して、それを仕事にしようと思いました。1つひとつ思い返してみると、日常的にサプリを飲んで栄養面に気をつけていることや、ナチュラルコスメを手取る機会が多いことに気づいて、『自分の好き』を見つけてあげることができたんです。その後、ナチュラル・オーガニックコスメを扱うセレクトショップに勤め、ハーブの勉強やハーブティーの試飲をする機会が増えました。ハーブティーの効果を知れば知るほど興味を湧いてきて、ハーブティー検定2級を取得しました」

— 仕事内容を簡単に教えてください。

「現在は、ハーブティーや香りを通じて心を潤すための選択肢を広げのお手伝いをしています。美容師



の夫が独立をするタイミングで、美容院にハーブティースタンド『meture(ミチュア)』を併設しました。ハーブティーのメニューづくり、茶葉をブレンドして提供することが私の仕事です。その日の気分に合わせてセレクトできるので、自分について考えるきっかけにもなれたらうれしいです」

— 調香師としても活動されているんですよね？

「以前から、お香やキャンドルを買うことが好きで、ハーブティーと香りを作る工程は作業が似ているので、最近は香りもつくって商品化しています。結構地道な作業ですが、夢中になってやるのができて楽しいです。少しずつ商品を増やし、近い将来『ヘアケアを旦那さんが監修して私が香りをつくる』ということをやってみたいと思っています」

— やりがい

「お店でハーブティーを飲んだあとに、ギフトとして茶葉を買ってくださった方や、『ハーブのことを知りたくなった』と本屋さんでハーブの本を買って、数日後にその本を読ん

でいることを伝えてくださった方もいました。そういう、うれしい出来事があるたびに私の心が潤っています」

— メッセージ

「これまで何を頑張ってきたか、何を褒められたかを思い返してあげると、自分の特徴を見つけることができます。私の場合は、好きなもの、やりたいことの先に新たにやりたいことが見つかってどんどん派生しています。その感覚は年齢を重ねるにつれて変わってくると思うので、今の自分の気持ちを大事にしてください！」



年齢別

18歳

↓

25歳

↓

27歳

バレーボール部に所属。キャプテンを務め、仲間と切磋琢磨する。

ナチュラル&オーガニックコスメを扱うセレクトショップに転職。ハーブティーのことを勉強するように。

美容院併設のハーブティースタンドをオープン。夫婦で切り盛りする。

先輩のインタビューをもっと見たい方は、WEBサイトへ！

<http://amb100search.com>



お客様のニーズをしっかりと汲み取り、
最善の提案を。



工藤 颯さん(1999年生まれ)

東邦高校 出身
愛知学院大学 経済学部卒業

名鉄協商株式会社

名古屋市中村区名駅南2-14-19
<https://www.mkyosho.co.jp/>

なるためには

- 必要資格 / 特になし
- 主な進路 / 高校卒業→大学に進学→総合商社に就職→モビリティ事業部に配属

—学生時代

「野球部に入り、休みなく毎日部活に打ち込みました。1学年上の先輩が甲子園に出場したのですが、八戸学院光星高校に大逆転した試合が印象に残っています。野球一筋の高校生活で、忍耐力が身についたと思います。愛知学院大学には、スポーツ推薦で進学しました」

大学時代について教えてください。

「印象に残っている講義は、ナゴヤドームの集客数と飲食店などの近隣店舗の経済効果についてゼミで研究したこと。過去のデータを分析し、現地で調査をおこなうこともありました。パソコンを使った授業が多かったため、仕事でも役に立っています。大学では準硬式野球部に入りました。東海地区の代表として中国に行き、現地のプロ野球選手と交流したことも視野を広げるともいい経験になりました」

就職活動について教えてください。

「大学生のとき、スポーツジムでアルバイトをしていました。トレーニング指導をするなかで、『人と話をする営業が向いている』と感じ、営業の仕事一本で就職活動をおこなっていました。社内の雰囲気もよく、社員のみなさんも話しやすい方ばかりだったので、パーキング事業やモビリティ事業などを展開する名鉄協商に就職しました」

—仕事について

「私はモビリティ事業本部に配属され、カーリースの営業を担当しています。入社当初は、自動車を自分で

—メッセージ

「営業職は、明るく元気な人が活躍しているイメージがあります。新規開拓営業をすることもあるので、門前払いをされても挫けない忍耐力も必要ですね。何事にも興味をもって相手の話に耳を傾けることで自身を成長させられると思います。私は大学生のとき、長期休暇を利用して台湾やグアムなどへ海外旅行に行きました。日本では経験できなかったことも海外では経験できたので、とても刺激的でしたし楽しかったです。みなさんも、ぜひ海外へ行ってみてください！」

ありがとうございます。



仕事内容を簡単に教えてください。

「カーリースは、車両代のほかに車検や保険など、自動車にかかる費用を月額で支払えますし、購入するよりも節税効果も期待できます。そして、自動車は企業になくはないもの。走行距離、積載量、外装など、お客様の業種によって求める自動車が変わります。お客様のニーズをしっかりと汲み取り、最善の提案をすることが私の仕事です」

—やりがい

「まだわからないことも多いですが、知識や経験を増やして成長できることが楽しいです。お客様と信頼関係を築くことで、自動車という高額な商品を私に任せてもらえることもやりがいにつながっています」



18歳

部活に打ち込んだ高校時代。高校卒業後は、愛知学院大学へ。

22歳

営業職を軸に就職活動をおこない、名鉄協商に就職。

24歳

カーリースの営業を担当。お客様と信頼関係を築きながら、日々の仕事に取り組む。

先輩のインタビューをもっと見た方は、WEBサイトへ！

<http://amb100search.com>

